

- 3 . 食のリスクコミュニケーションとメディアの役割に関する調査研究

Risk Communication on Food Safety and the Role of Mass Media

キーワード	食の安全、マスメディア、リスクコミュニケーション、BSE、鳥インフルエンザ
Key Word	food safety, mass media, risk communication, BSE, avian flu

1. 調査の目的

現代人は、さまざまなリスクに囲まれて生活しているが、とりわけ食べ物の安全性は、日々の生活に欠かせないため、大きな関心事である。本調査では、放送文化基金の助成を得て、食の安全に関する情報環境の中で、とりわけメディアがどのような役割を果たしているかについて、一般の消費者・生活者へのアンケート結果から明らかにしようとした。

2. 調査研究成果概要

(1) 日常的なリスクと食の安全

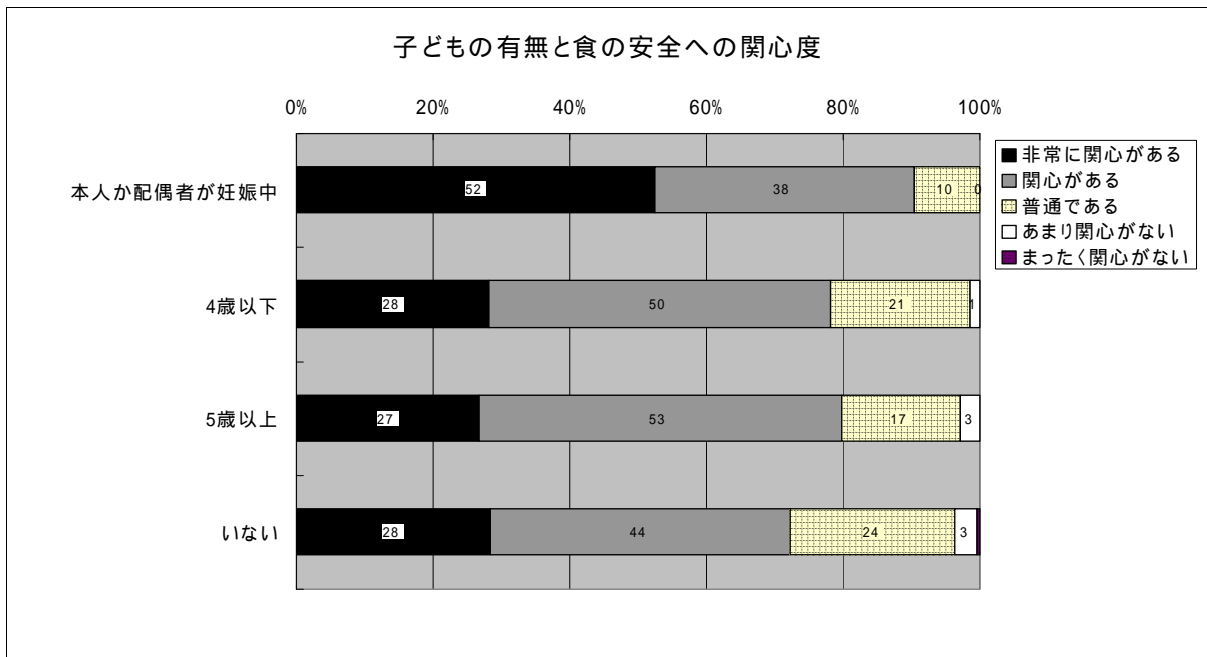
前述のような問題が起こってきた背景には、食の生産・流通経路の複雑化・国際化に加えて、最新のフードサイエンスや新技術の導入などがあり、一般の生活者・消費者にとっては、「事の本質」がわかりにくくなってきていることが一因となっている。このような状況では、生活者や消費者が食のリスクを正しく理解し適切な行動を選択する際の「リスクコミュニケーション」が大きな役割を果たす。

食のリスクコミュニケーションには3つの特色がある。

第1は、食品には、潜在的なリスクもあるが、栄養・エネルギー源でもあり、メリット・デメリット両面のバランスを常に考える必要があること。

第2は、食品は消費者・生活者にとって身近な存在であると同時に、リスク軽減のための行動選択が、私たち自身の判断にゆだねられていること。

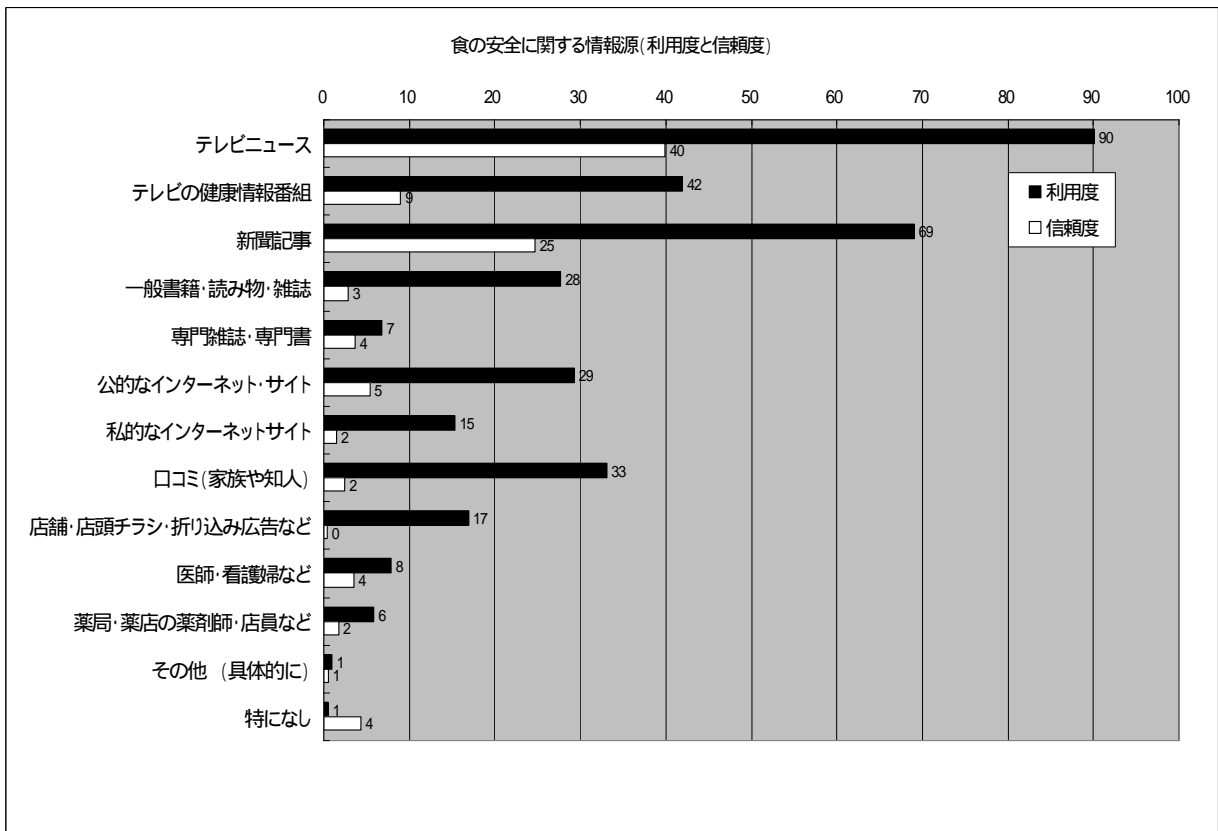
第3は、食品のリスクには、個人の食生活パターン、居住地域、性、年齢、国民性など多くの要因が関与すること。たとえば、妊婦や小さな子どもを抱えている人の場合は、食の安全への関心は、そうでない人に比べるとかなり高くなっている。



(2) マスメディアの役割と課題

そのような中で、食の安全に関する情報源として、メディア、とりわけテレビや新聞などのマスメディアの果たす役割は大きなものとなっている。

今回実施した消費者アンケート調査でも、食の安全情報に関して、9割の人が「テレビニュース」を「最も多く利用する情報源」としてあげており、4割の人が「信頼できる情報源」としている。一方、「テレビの健康情報番組」の利用率は4割と高いが、信頼率は1割弱となっており、視聴者は、日常の話題のひとつとしてこの種の番組を楽しんでいる傾向がうかがえる。



一方、メディア報道の問題もある。一昨年の米国 BSE のテレビ報道では歩行困難な牛の資料映像、わが国の鳥インフルエンザ問題では処分される鶏や鶏舎の消毒シーンが繰り返し流された。その結果、いたずらに不安とマイナスイメージを強調することになり、実際には安全な食品までが売れ行きが落ちる、いわゆる「風評被害」を引き起こしてしまった。2004年の米国産牛肉輸入禁止の時は、牛丼店やお客の困惑の様子ばかりが取り上げられ、BSE 問題の本質とは程遠い報道内容が目立った。

食中毒や感染症などの緊急性を要するリスク情報は、できる限り迅速に情報伝達する必要がありますが、すぐさま健康被害には結びつきにくい食のリスクに関しては、いたずらに不安をあおるような報道ではなく、客観的な情報伝達が不可欠である。

食の安全確保は、客観的なデータ伝達だけでなく、食のリスクに関する社会コミュニケーション的な理解と実践が不可欠な時代となった。その意味で、この分野の研究は始まったばかりといえよう。